

## 日本原子力学会 第150回倫理委員会

### 議事録

1. 日 時：2025年5月30日（金）9:30～11:50
2. 場 所：原子力学会事務局会議室+Zoom（ハイブリッド） ※：Zoom参加
3. 出席者：大場委員長<sup>\*</sup>，沖田副委員長，神谷幹事，伊藤(公)委員，伊藤(聡)委員<sup>\*</sup>，大久保委員，後藤委員，芝原委員，出町委員<sup>\*</sup>，中野委員<sup>\*</sup>，中村委員<sup>\*</sup>，福家委員<sup>\*</sup>  
(委員14名中12名出席)  
小林特別委員<sup>\*</sup>，佐藤特別委員<sup>\*</sup>  
オブザーバー 吉永氏<sup>\*</sup>
4. 資 料：
  - 倫 150-1-1 前回議事録（案）
  - 倫 150-1-2 委員の承認について
  - 倫 150-1-3 委員会体制
  - 倫 150-1-4 ダイバーシティ&インクルージョン推進目標シート（2025年度）
  - 倫 150-1-5 倫理委員会 活動実績と引き継ぎ事項
  - 倫 150-2-1 倫理委員会活動計画
  - 倫 150-2-2 倫理委員会役割分担表
  - 倫 150-3 2025年秋の大会企画セッション提案書
  - 倫 150-4 2025年度倫理研究会の企画案
  - 倫 150-5-1 次回倫理規程改定に向けた検討について
  - 倫 150-5-2 倫理規程の改定について（付議）
  - 倫 150-5-3 メール審議でいただいたコメントの扱い
  - 倫 150-5-4-1 規程改定の経緯（25年版）
  - 倫 150-5-4-2 2025年倫理規程改定の主なポイント
  - 倫 150-5-4-3 倫理規程（2025年5月改定）1枚集約版
  - 倫 150-5-5 倫理規程改定 アトモス投稿ドラフト
  - 倫 150-6 標準委員会教育資料（倫理規程改定と倫理規程にかかわる価値の時代変化について）
5. 議事概要：
  - (1) 前回議事録について  
神谷幹事から資料150-1-1に基づき説明があり、特にコメントはなく、了承された。
  - (2) 委員候補の承認等  
大場委員長から、資料150-1-2に基づき、吉永恭平氏（三菱総研）および浅原章氏（国際原子力機関）から委員への立候補があったことが報告され、委員候補として異議なく了承された。  
また、佐藤特別委員から、学会理事は退任となるが、委員への立候補があり、異議なく了承された。

以上の委員候補 3 名に関しては、次回理事会に付議することで幹事が対応を進めていくこととした。

大場委員長から、資料 150-1-3 に基づき委員会体制について説明があり、今回任期の更新が必要な委員は、必要に応じて個別に委員長に相談することとし、新たな体制は 3 役に一任することとした。

以上に伴う委員会メーリングリストについて、中野委員が更新することとした。

### (3) ダイバーシティ&インクルージョン推進について

神谷幹事から、資料 150-1-4 に基づき、ダイバーシティ推進委員会から依頼のあった 2025 年度の目標シートについて説明があり、原案どおり提出していくこととした。

### (4) 理事引継ぎ資料について

神谷幹事から、資料 150-1-5 に基づき、倫理委員会担当となる理事委員・特別委員向けの引継ぎ資料について説明があった。

次回委員会でも委員会資料とし、新委員も含めて再説明することとした。

### (5) 活動計画および役割分担について

沖田副委員長から資料 150-2-1 および 150-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・今回はミニ講演会はなし。次回委員会では、佐藤委員候補にお願いすることで調整する。
- ・技術倫理協議会の予実績：133 回 4 月 21 日，134 回 5 月 26 日，135 回 6 月 30 日
- ・中野委員から、技術倫理協議会の 2025 年度シンポジウムは 12 月 8 日の計画で、テーマは「災害と倫理」を提案したが、「AI と倫理」が有力候補となっている状況について紹介があった。聞いてみたい内容等があれば中野委員に連絡することとした。
- ・中野委員から、技術倫理協議会の場で、本会の倫理活動の状況として、倫理規程改定について紹介する予定であるとの説明があった。

### (6) 2025 年秋の大会企画セッションについて（主担当：出町委員、副担当：大久保委員）

出町委員から、資料 150-3 に基づき、秋の大会企画セッションの提案書（事務局提出済み）について説明があった。

準備のために委員会で標準的に使用している資料に必要な事項（準備スケジュール，講師との事前調整，役割分担等）を落とし込んで、引き続き準備を進めていくこととした。

### (7) 2025 年度倫理研究会について（主担当：芝原委員、副担当：中野委員）

芝原委員から、資料 150-4 に基づき、前回から更新した企画案について説明があった。主な議論は以下のとおりで、秋頃（11 月頃）の開催に向けて、引き続き検討していくこととした。

- ・資料では、不正事案の要因がコミュニケーションだけの問題だったような記述になっているが、実際には様々な要因のひとつだと思うので、それが分かるような記述にした方がよい。
- ・ATENA が「製造業者不適切行為の抑止及び発生時の対処ガイド」というガイドを発行して

いるが、その中で、不適切行為の原因及び背景として「品質保証部門の独立性」、「納期・利益優先の風土」、「品質コンプライアンスへの意識」を挙げている。学会の倫理研究会としては、「納期・利益優先の風土」や「品質コンプライアンスへの意識」といった切り口で議論してはどうか。

- ・不正事案の要因をコミュニケーションに求めるだけでは議論が深まらないと思われる。不適切行為の抑止には安全文化の醸成が必須であり、コミュニケーションは安全文化を念頭にした諸対応の出発点のため、その共通認識を得ることは必要に思う。
- ・コミュニケーションの問題とあるが、品質問題を起こした組織では、むしろ自社の利益を守るという観点で一致結束しており、その結果として品質問題を起こしていると思う。
- ・研究会で品質不正全般を取り扱おうと、検討すべき、考えるべき項目が発散してしまう可能性がある。また、現案では委員会と YGN に参加者を限定していることから、自分事として品質不正を考えてもらうためにテーマを絞り込んだ方が効果があると考えて、資料にある提案としている。心理的安全性やコミュニケーションに絞った議論ができるようにという主旨である。
- ・倫理規程にもある、第 3 者に説明できるか、という観点が重要ではないか。
- ・委員会としてメーカ等の品質不正問題は 2019 年春の年会で取り上げたのが最後で、同様の問題は継続して発覚している。原子力事業者や規制などに話を広げずに、メーカ等の苦労や悩みを中心に、資料ある案を軸に進めることでよいのではないか。踏み込んだ議論や普遍的な議論ができなくても、研究会に参加した方が良好事例も含めて、あるいは悩みを共有して持ち帰れば、学会の場の設定としては意義があると思う。
- ・現場をよく知っている方が参加できれば、学びが増えると思う。
- ・グループワークでは、事前課題を与えるなど、短い時間での討議の有効性を高める工夫をしてはどうか。
- ・グループワークにこだわらなくても、メーカ等の方からのプレゼンの後に、学識者からのコメントも含めてパネルディスカッション方式にする案もある。
- ・グループワークは満足度の高いやり方ではある。参加したいと思える企画にしたい。
- ・研究会参加者をどの範囲とするか今後、議論を深めていったらどうか。倫理規程制定 20 年の連載企画において、「原子カムラ以外への発信をお願いしたい」とのご意見を頂いており、研究会を活用できないかと考えている。
- ・参加者を限定せずに、メーカの設計部門や現場等の方々に参加しやすい形式にしてはどうか。

#### (8) 倫理規程改定について

大場委員長から、5 月 29 日開催の理事会で、委員会から付議した倫理規程改定が異議なく了承されたこと、同日の理事会では、昨年 11 月の理事会で検討状況の報告をしたこともあってか、他の学会規程類と同じような扱いで十分な議論はなかったとの報告があった。

神谷幹事から、資料 150-5-1～150-5-5 に基づき、改定までの実績、今後の周知計画について説明があった。

倫理規程改定についての委員会ホームページへの掲載案（資料 150-5-4-1 および 150-5-4-2）、学会誌への投稿案（資料 150-5-5）について、コメント等があれば 6 月 10 日までに神谷幹事まで連絡することとした。

(9) その他

- ・大場委員長から、6月4日実施予定の標準委員会での倫理教育資料について説明があった。実施結果については、後日委員会にフィードバックすることとした。

6. 次回：別途調整することとした。

以上